COC事業ニュースレター

神戸市看護大学 KOBE CITY COLLEGE OF NURSING　文部科学省 地(知)の拠点

市看×いちかん ちいき通信

2016年 春号

2016年3月10日　発行

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」
「(い) っしょに (ち) いきづくりについて (かん) がえる」をコンセプトにしています。

今号の内容

P1　・COC事業の更なる充実に向けて
・COCコラボ教育ピックアップ
P2～3　COCフォーラム
・地域の顔（須磨区竜が台地区 川部忠夫さん）
・地域つくり・健康つくり（みなと銀行地域戦略部 森田成敏さん）
・コラボ教育での学び（学生座談会の報告）
・COC研究ひろば第６回（地域・在宅看護学 波田弥生）
P4　活動予定

COC事業の更なる充実に向けて
～COC＋への参加～

神戸市看護大学　地域連携教育・研究センター運営委員長　石原逸子

平成25年度後期から着手したCOC事業も、27年度末で3年目が終了する。本年度は、COC事業を学会のシンポジウムで紹介する機会をいただき、本学COC事業を広報することができた。たとえば、日本看護学教育学会第25回学術集会（平成27年8月）では、地域住民による教育ボランティアについて紹介し、本学の地域貢献の実績がCOC事業の中で生かされている状況を報告した。さらに、第35回日本看護科学学会学術集会（平成27年12月）では、「地域包括ケア時代における看護学教育の新たな取り組み」として、COC事業の2年間の取り組みを紹介した。これらを通じて地域の中で学生たちを学ばせる意義と必要性について、学会参加者たちと意見交換でき、地域住民と共に創り学ぶコラボ教育についてPRすることができた。平成28年2月には外部委員による中間評価があり、「訪問看護人材の教育の強化」「地域ケアシステムの構築」「地域住民のネットワーク構築」については、おおむね順調に進んでいるとのコメントを頂いた。さらに、COC授業を担当する教員もしない教員もCOC事業を通じて協力することが、地域住民との連携を推進していく力になるとの指摘もいただいた。COC事業の4つの課題に大学として取り組むことが、社会の中で大学の存在を意識することにつながり、この点が重要であるとのコメントもいただき、その重要性を再認識させられた。来年度からは、COC事業を継続しながらCOC+も本格的に始まる。神戸大学保健学部理学療法学科の学生たちと本学学生たちとが受講できる共通カリキュラムの開発や住民の生活動作や運動機能の増進に貢献する活動を行う予定である。学生たちが相互に協力し合う取り組みを通じて多職種間連携を学ぶことに期待したい。

COCコラボ教育ピックアップ　～2016年冬「健康生活支援学実習」～

健康生活支援学実習は、２年生が住民の生活の場に出向き、インタビューや地区探索を通して人と関わることや支援のあり方を考える実習です。本実習は一昨年まで本学の拠点である神戸市西区で実施していましたが、昨年度よりCOC事業の対象地区である須磨区でも展開し、今年度は10名の学生が実習しています。学生は実習を通して相手に関心をもって関わる力を養い、生活する人の視点に立って地区の環境や社会資源について考察します。2年生の前期には基礎看護技術演習Ⅲでヘルスインタビューを実施しましたが、本実習では、自分の足で歩いて地区を知ることで、地域での暮らす人の健康や支援のあり方を考え、3年生の科目実習に向けて継続看護の視点を養っていきます。（写真は地区のグランドゴルフに参加したときのものです）

（神戸市看護大学　地域連携教育･研究センター助教　石井久仁子）